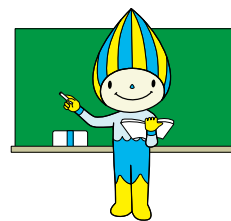


岐阜県の30年後の人口は？

～人口減少社会への挑戦

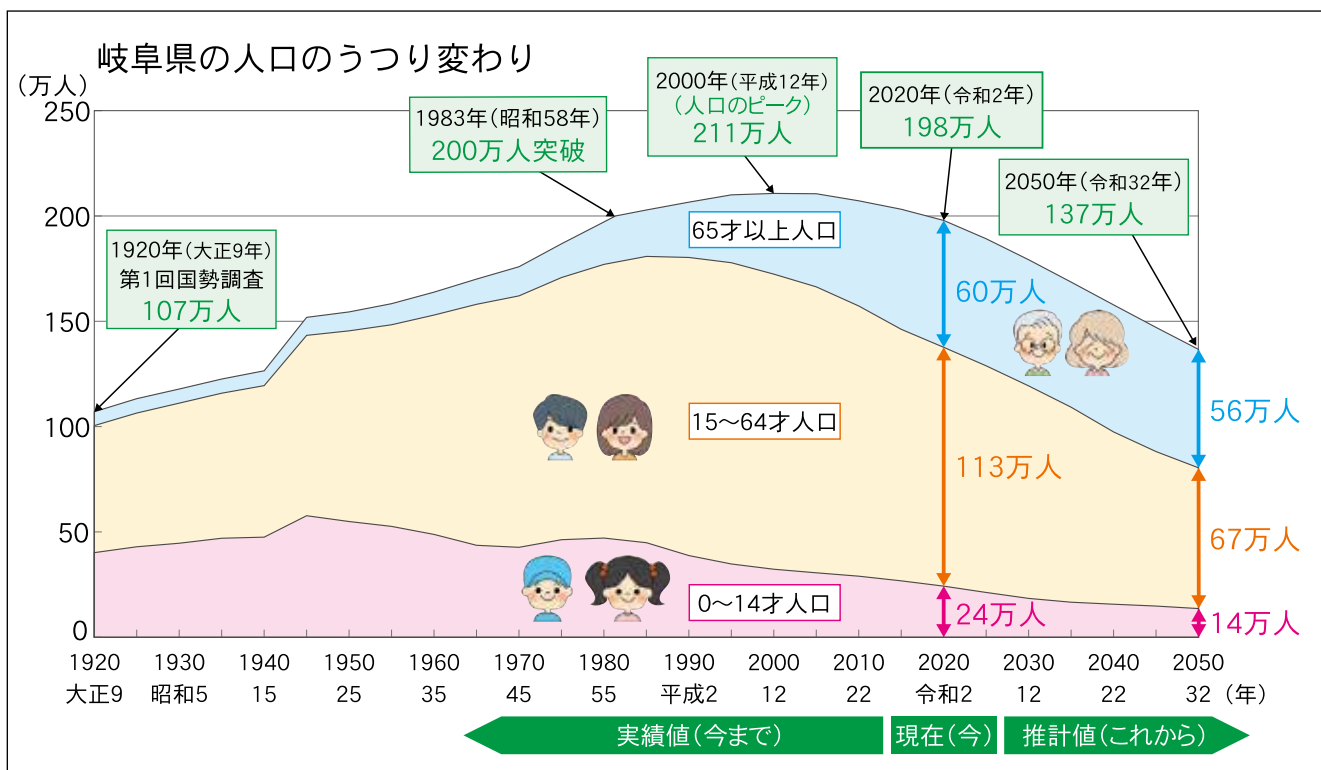


30年後の自分の姿を想像してみたことがありますか。

30年後というと、ちょうどみなさんが40才くらいになるころでしょうか。

下のグラフは、1920年（大正9年）の「第1回国勢調査」から2020年（令和2年）までの人口のうつり変わり、その30年後（2050年）までに岐阜県の人口がどのように変わっていくかをグラフに表したものです。

人口のうつり変わりで、今までとこれからでは、どんなことが違っているのでしょうか。



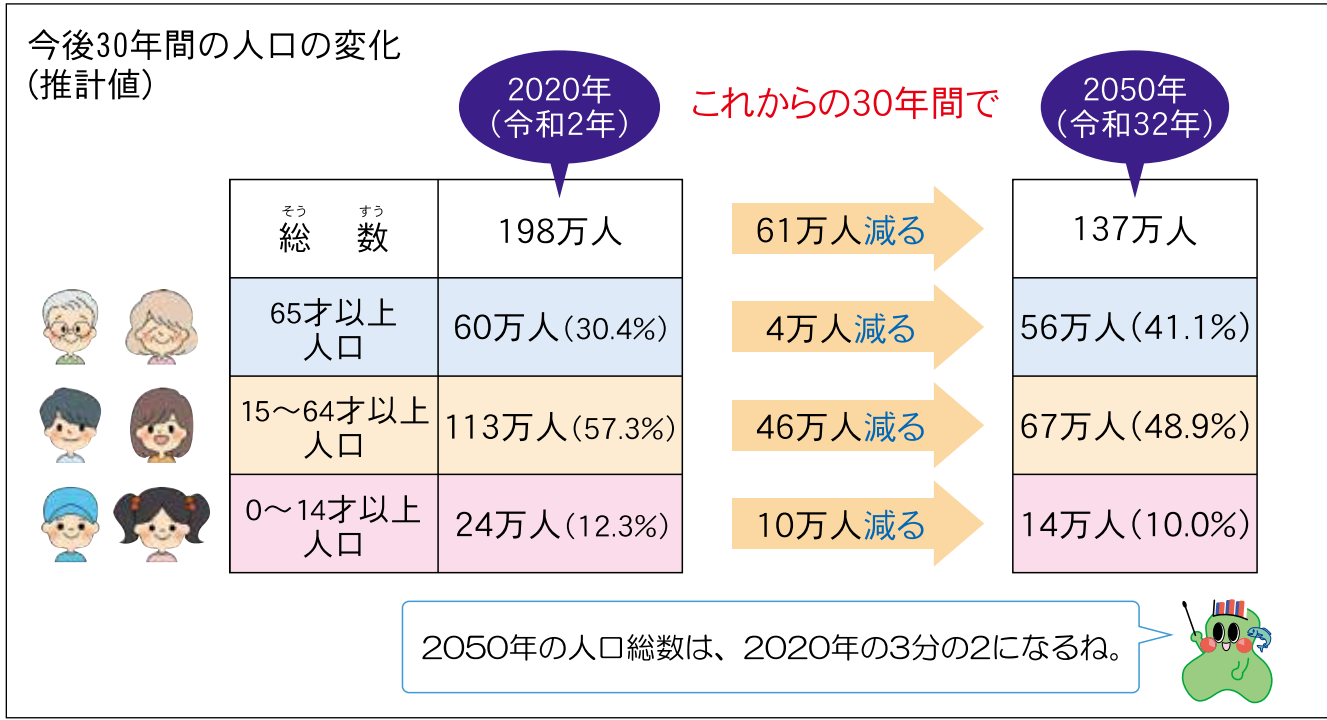
岐阜県の人口は、ベビーブームなどに後押しされながら長い間増え続け、1983年（昭和58年）には200万人を突破、さらに、2000年（平成12年）ごろには、211万人という人口のピークを迎えました。

しかし、1980年代から子どもの数が減り始めたことで、2005年（平成17年）ごろからは、人口が減り始めました。2015年から2020年までの5年間には、人口が約5万人減少しましたが、現在の土岐市の人口が約5万人であることを考えると、その人口減少の大きさが感じられます。

岐阜県人口動態統計調査によると、2018年（平成30年）9月には、岐阜県の人口は35年ぶりに200万人を下回ったと見込まれましたが、人口の減少は、これからも続いて、2020年から30年後の2050年には、今よりも人口が61万人も少ない137万人になると予測されています。

30年間で人口が198万人から137万人へ、つまり、3分の2に減るということを学級の中のことに例えて考えてみましょう。30人の学級は20人に、6人ずつのグループは4人ずつに人数が減るということです。すると、日直や給食当番、係活動がちょっと大変になる気がしませんか。すぐに順番が回ってきたり、1人2役になることもあるかもしれません。また、大人数でチームを作るスポーツなどができなくなってしまうかもしれません。

社会全体で人口が減ることも同じように考えることができます。人口が減ると働く人の数が少なくなります。すると、ひとりひとりの働く量が増えて大変になります。また、やりたいことができなくなって地域社会に元気がなくなってしまうことも考えられます。



このように、人口が減少していく社会は、「人口減少社会」と言われています。

上の図からもわかるように、減る人口が働く世代に集中していることから、「人口減少社会」は、今とても大きな問題とされているのです。

みなさんは、人口が減っても地域が元気であるためには、どんなことが大切だと思いますか。

「人口減少社会への挑戦」の第1歩として、先生やおうちの人と一緒に考えてみましょう。